

社外取締役メッセージ

さらなる成長を
新経営体制と共に実現社外取締役
中部 由郎

2020年度のマルハニチロにおける最大ニュースは何と言っても新社長の就任です。次期社長候補の選定は企業の最重要事項の一つであると同時に、十分な注意を払うべき問題です。今回の池見新社長の選定についても慎重な審議、プロセスを経て選定されました。伊藤前社長と私を含む3名の社外取締役で構成された指名・報酬委員会が2月に招集され、最終的には取締役会の審議を経て決定されました。池見新社長とは社長就任以前より取締役会等で議論を重ねてきたこともあり、お人柄・その深い見識ともによく存じ上げておりました。指名・報酬委員会の席上、伊藤前社長から池見新社長推薦の理由などご提案があり賛同いたしました。

株主として、また現在は社外取締役として長い期間にわたり当社に関わってきましたが、マルハニチロが誕生して10年以上が経過した今、総合食品会社としてバランスの取れた良い状態にあると思っております。そのような中、新型コロナウイルスに直面しています。いずれ流行は下火にはなるとは思いますが、当社の手掛ける多くの業務がすべて元通りになるとは思いません。市販冷食は伸長するかもしれませんが、業務用食品は昨年比で80%程度までしか回復しないかもしれません。今後はその見極めと見合った投資が必要になってくると思います。企業はイノベーションを止めた瞬間から衰退します。いまこそが池見社長が掲げているイノベーションを実践する時であり、実現できると信じています。

実効性ある取締役会の実現と
グループガバナンス実践に尽力社外取締役
飯村 北「変化の時代」に必要な
「多様な価値観の理解」社外取締役
八丁地 園子

マルハニチログループは、「海といのちの未来をつくる」という志に立ち、グローバル領域で「マルハニチロ」ブランドの水産品、加工食品を生産・販売する総合食品企業をめざしています。この実現にあたって、新型コロナウイルスやITテクノロジーの変化、国際情勢の激変等、我々はチャレンジングな「変化の時代」にいます。

こうした時代には、「多様な価値観の理解」が必要となります。多様な経験、多様な思考方法の人財を集め、叡智を結集し、ステークホルダーの多様な価値観を理解することができるかが企業の成敗を決すると言っても過言ではありません。したがって、社内人財のダイバーシティは変化の時代に重要な役割を果たす戦略であると言えます。

マルハニチログループでは、従前よりダイバーシティ推進の重要性を認識しており、2017年にはダイバーシティ推進室を設置、女性管理職や障がいのある方々のさらなる活躍推進に取り組み、実績をホームページ等で開示しています。この方向性をますます深化させることで、多様な価値観の理解が進み、深まり、組織としての財産となることで、グループの発展に大きく貢献するであろうと思われまます。

2020年4月に就任された池見社長は、30年にわたり海外事業に従事され多様な経験と多様な価値観に触れてこられました。ダイバーシティ経営の達人として、リーダーシップを発揮されることを大いに期待するとともに、私自身も活発な取締役会と活力あるマルハニチログループの実現に向けて、社外取締役として積極的に関わっていきたくと考えています。

弁護士として経験を重ねる中で、さまざまな企業のガバナンス問題に関与してきました。社外取締役として取締役会に出席していますが、関係資料が毎回事前に配布され十分な事前検討機会が与えられ、また、毎回、業務分野ごとに担当取締役が現状の分析報告を具体的に説明されることは、取締役会の実効性の観点から評価できる点と考えます。さらに望むとすれば、各議案に対し取締役会の場においてもより積極的に意見をもう少し戦わせても良いように思います。

次に、グループガバナンスですが、本社はガバナンスが効いているように感じますが、子会社や工場に関しては、もう少しガバナンスを効かせる必要があるように思われます。一昔前までは、子会社はリスクヘッジの手段として使われ、いざとなれば切り捨てればよいという見解もありましたが、現在では、子会社を創った以上、そのガバナンスについても親会社と同様のレベルにする必要があります。

最後に、ガバナンスの中心にあるべき社長ですが、前社長は剛腕、新社長は柔軟と感じています。前社長は、正義感をもって悪をねじ伏せ、新社長は、柔らかく説き伏せて悪を善に導く、そのような印象を受けます。会長と新社長のコンビは、剛と柔という最適な組み合わせに思えます。この名コンビが最大限の結果を生み出せるよう、社外取締役として取締役会の実効性確保やリスク管理に尽力していきます。